漁村の魅力を生かし伝える

―北海道寿都町の地域振興の取組み―

研究員　寺林暁良

1　寿都町での地域振興の始まり

道南の日本海に面した寿都（すっつ）町は、人口約3,600人の漁業・水産加工業の町である。しかし近年は、例に漏れず過疎化や後継者不足が進行しており、漁業や水産加工業を中心とした産業の活性化が課題となっていた。そこで寿都町では、06年に「寿都地域マリンビジョン」を策定し、寿都町漁業協同組合（以下「漁協」）等と協力して地域振興に乗り出している。

2　地域のありのままの魅力を伝える

寿都町の地域振興の特徴・考え方は、地域のありのままの姿を資源として捉え、漁村の当たり前の風景を魅力として発信することだ。それらを通じて町外から人を呼び込み、情報を取り入れて「元気な漁業・漁村づくり」を行いたいという。

漁業の魅力を伝えようと行われているのが、中・高生等を対象とした水産加工場見学、地引き網、漁船への乗船、ホッケのかまぼこづくり等の「漁業体験学習」である。これには町外の子どもに寿都町の日常生活を知ってもらう狙いがあり、昨年からは「漁家民泊」の取組みも始まっている。体験学習や民泊を希望する学校は年々増加しており、今年は現時点で道内外から約2,000人の体験学習生を受け入れる予定となっている。

中学生の漁船への乗船体験

寿都町では地元の事情に詳しい中高年をガイドとして育成し、観光客に町の魅力を伝える取組みも行われている。この取組みは、町外からの来訪者がなかなか気づかない視点を提供したり、「鰊（にしん）御殿」や「カクジュウ佐藤家」等の明治時代の漁家建築を歴史資源として活用したりと、町に今ある資源の掘り起こしにつながっている。

また、漁協が林地を取得し、ブナやミズナラの植樹活動を行う等、長期的視点での地域環境保全にも取り組んでいる。これは、山と海のつながりを意識し、「生の営み」の生命線を大事にしていこうという考えだ。

これらの取組みに対しては、町民らの意識も高く、町内の漁業者やガイドによる体験学習生や観光客への対応もずいぶん上達してきているという。観光客や就業者を急拡大するのは難しいことではあるが、こうした取組みを通じて町のもつ魅力を地道にアピールしていくことが、寿都町の地域振興策なのである。

3　不利な自然条件を逆手に取る

こうした活動に加え、地域振興の＋αとして寿都町の自然条件を逆手に取った取組みも行われている。

寿都町の漁獲量の上位にはホッケ、イカ、養殖ホタテ等が来るが、その他にシラスの佃煮やホッケの飯寿司（いずし）等多くの特産品がある。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

特産品が並ぶ漁協内の直売所

町内の風力発電所

さらに地域振興の風を呼び込む特産品として98年から本格的に売り出されたのが「寿（ことぶき）カキ」である。日本海側は、波が荒くプランクトン量が少ないためにカキの成長が遅く、一般的にカキ養殖には不利とされる。しかし、寿都町はこの自然条件を逆手に取り、カキが品薄となる４月～６月に売り出せることを強みとしている。さらに、寿カキは、漁協の宅配便による直販の仕組みの始まりとなっているとともに、「寿かきふるさと祭り」「寿都港おさかな市」といった体験型イベントに活用され、町の産業活性化に大きな役割を果たしている。ちなみに、町内の特産品は漁協内の直売所でも購入できる。

また、寿都町は強風の町としても有名であり、「だし風」や「浜風」は漁を妨げる長年の悩みの種であった。この風を資源に変えたのが風力発電所である。現在町内には９基の風車があり、年間発電量は合わせて約３千万kwhである。これは7,500世帯分の発電量に相当し、計算上は寿都町内（約1,850世帯）に必要な電力の何倍もの電力を生んでいることになる。寿都町の風力発電は、クリーンなエネルギーの活用として地域環境との共生のシンボルとなっている。

４　人・組織の連携による地域振興の拡大

こうした活動に加えて寿都町が重要視しているのは、人・組織の連携である。寿都町で行われている活動は、町や漁協等の連携はもちろん、町内外の様々な人・組織間の連携の結果として広がったものだという。寿都町は、96年に北海道東海大学と協定を結び、学術交流だけでなく、大学生と町内の子どもの交流や民話の聞き書き等を行っている。また、隣接する自治体間の連携としては、農業が盛んな蘭越町や酪農が盛んな黒松内町とタイアップし、海から山に至る一体的なツーリズムを実施している。さらに、体験学習やツーリズム等は地元や隣町のNPOや民間事業所との連携によって行われている。一つの組織では人材も活動範囲も限られてしまうが、寿都町では他の組織と積極的に連携を行い、地域振興を拡大しているのである。

08年には漁協近くの商店街に道の駅「みなとま～れ寿都」が開設し、人々の連携の促進と地域の魅力の発信を行う総合案内所として期待が寄せられている。

海、山、町、風、そして人。これらを活用して地域振興を行う寿都町の取組みは、地域に当たり前にあるものこそが地域振興の一番の資源であること教えてくれている。

（てらばやし　あきら）

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。